

# 職員育成と虐待リスク管理

平成25年度障害者虐待防止・権利擁護指導者  
養成研修

2013. 8. 29

社会福祉法人文京槐の会

江 澤 嘉 男

# 文京槐の会沿革

---

昭和57年 知的障害者通所事業所「つつじの園」開設

昭和58年 肢体不自由者通所訓練施設「だるまの家」開設

平成3年 社会福祉法人文京槐の会認可

平成3年 法人施設竣工  
知的障害者通所更生施設「文京つつじの園」開設  
心身障害者通所訓練施設「文京だるまの家」開設  
文京区短期保護・自立生活訓練事業受託

平成10年 社会福祉法人文京槐の会運営のあり方検討会委員会設置

# 文京槐の会沿革

- 
- 平成19年 「つつじの園」と「だるまの家」を統合。生活介護事業に移行。
  - 平成20年 障害のある中高生の放課後居場所対策事業を文京区より受託
  - 平成21年 文京区移動支援従事者養成研修開始
  - 平成22年 障害者(児)相談支援事業・居宅介護事業・移動支援事業開始
  - 平成23年 文京区24時間安心サポート事業・虐待防止法一部窓口業務受託
  - 平成25年 就労移行支援事業・GH／CH整備事業開始

# 文京槐の会事業概要

---

- ①生活介護事業 定員35名
- ②短期保護事業・自立生活訓練事業(文京区)
- ③地域活動支援センター 定員15名
- ④障害のある中高生の放課後居場所対策事業(文京区)
- ⑤障害者(児)居宅介護事業

# 文京槐の会事業概要

---

- ⑥障害者(児)移動支援事業
- ⑦知的障害者移動支援従事者養成研修
- ⑧特定相談支援事業 ・ 一般相談支援事業
- ⑨文京区24時間安心サポート事業
- ⑩虐待防止センター一部窓口業務(平日夜間及び祝休日)

# 法人設立当時の社会背景

---

- 昭和54年養護学校義務化を受けた卒業生対策
- 利用者の特性や地域の状況に応じた多岐にわたる機能
  - ①プログラムの多様化
  - ②日中活動以外のサービス提供
  - ③地域生活の全般的な支援
- 利用者の主体的な選択が尊重されなければならない

# 誰もが主張する本人主体の尊重

---

知的障害のある人の周囲にいる人たち（福祉関係者）は彼らが無難に暮していける事を願っている。

そのために本人の事に対して過度に慎重になり、本人の選択すべき事項について先回りして決定し、または誘導している。

これでも本人主体って言うってしまう支援者？

# 障害のある人のためにという大儀名文

---

- ・ 障害者福祉は免罪符だという思い込み
- ・ その人にとって必要なことだという支援者側の勝手な思い込み
- ・ 制度が未成熟だといった勝手な言い分
- ・ 一部の評価を都合の良いように利用する
- ・ 業務の本質を理解していない



# 事業所として取り組む重点課題

---

- ① 支援の本質を見据えた法人事業のあり方検討
- ② 利用者の権利擁護と自立について一定のガイドラインの確認
- ③ 是々非々を相互に指摘し合える組織作り

# ①支援の本質を見据えた法人事業のあり方検討

---

- 通所事業所であっても、地域生活全般を見据えた支援が大事
- 報酬のないところにサービスは無い？

## ②利用者の権利擁護と自立

---

権利擁護を共通言語とするために

前提として

- ・ 権利擁護は、当事者の「自己決定」「自己主張」から始まる
- ・ 権利の回復だけではなく、日常的に障害のある人たちの権利をどう保障し確立していけるのか
  - ・ 権利侵害への対応
  - ・ 権利主張への対応
  - ・ 障害者計画等への参加

## ②利用者の権利擁護と自立

---

「自立」を共通言語にするために

前提として

様々な支援を受けながらも、精神的に自立し主体的に自分の生活を築き、展望しうる可能性

## ②利用者の権利擁護と自立

---

槐の会支援指針

虐待とは

虐待は、その行為が虐待であるかどうかの支援者の意図とは関わりなく、利用者視点、利用者自身が苦痛を感じているかの視点から判断する  
支援者がいくら一生懸命であっても利用者にとって有害な行為であれば虐待である。

### ③是々非々を相互に指摘し合える組織作り

---

- サービスモニターチェックの取り組み
- 第三者評価の実施
- 苦情解決活動の活性化
- 職員相互の振り返り

# 文京槐の会 施設チェック表記入のお願い

---

文京槐の会では、運営する事業所利用者の権利擁護や提供するさまざまな福祉サービス等の質の向上を目指すため、お越しいただきました皆様方からご意見を頂戴しております。

私達が提供する支援は、利用者と対等な立場での契約に基づいて実施される事とされていますが、私達が気付かない中で、利用者の不利益などを生じさせているとしたら、早急な対応、改善に努めなければなりません。そのためには、より多くの視線と意見が必要です。

# サービスモニターチェック表

## Ⅲ. 利用者の参加について

19 施設には利用者が「やりたい」と考えることが出来るような仕組み、「やりたくない」「参加しない」という選択肢がありますか。

- ①ない                      ②ある                      ③わからない

〔具体的にお書きください〕

20 利用者が自ら計画し、実行するような取り組みがされていますか。

- ①取り組みがされていない              ②取り組みがされている              ③わからない

〔具体的にお書きください〕

21 施設のサービスに対し、利用者の不満や要望を聞くような取り組みがされていますか。

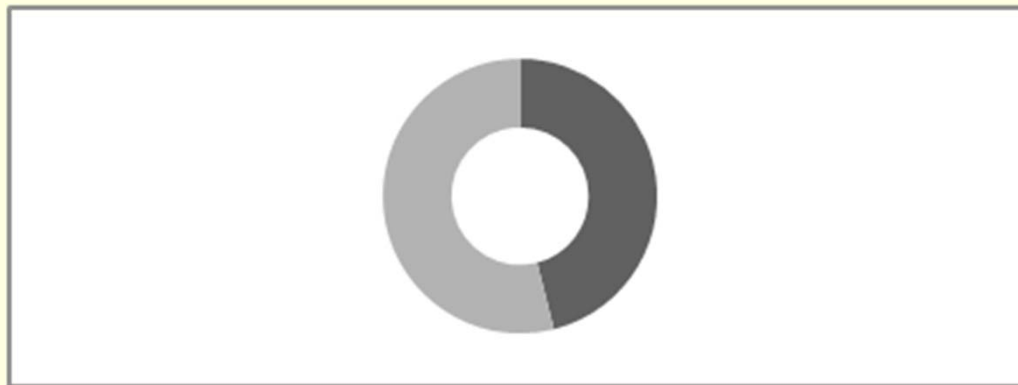
- ①取り組みがされていない              ②取り組みがされている              ③わからない

〔具体的にお書きください〕



# 職員チェックリスト

設問13 他の職員のサービス提供や利用者への対応について問題がある  
と感じることがある。

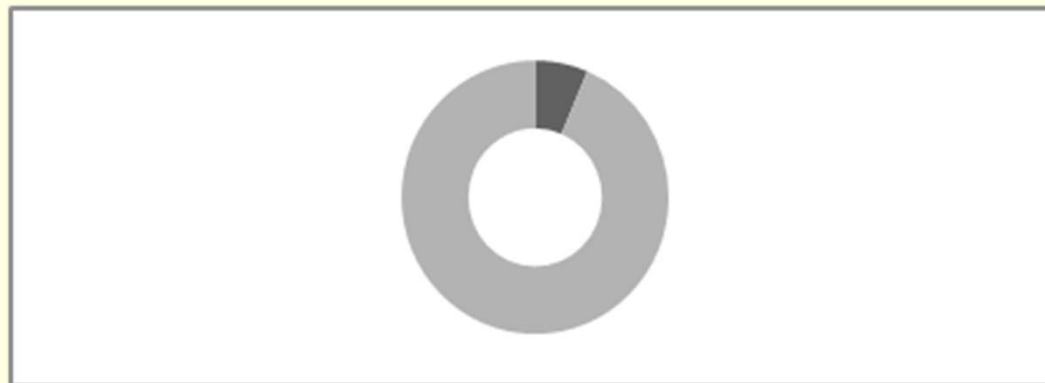


■ はい 29 人

■ いいえ 34 人

# 職員チェックリスト

設問16 他の職員が、利用者に対してあなたが虐待と思われる行為をおこなっている場面にでくわしたことがある

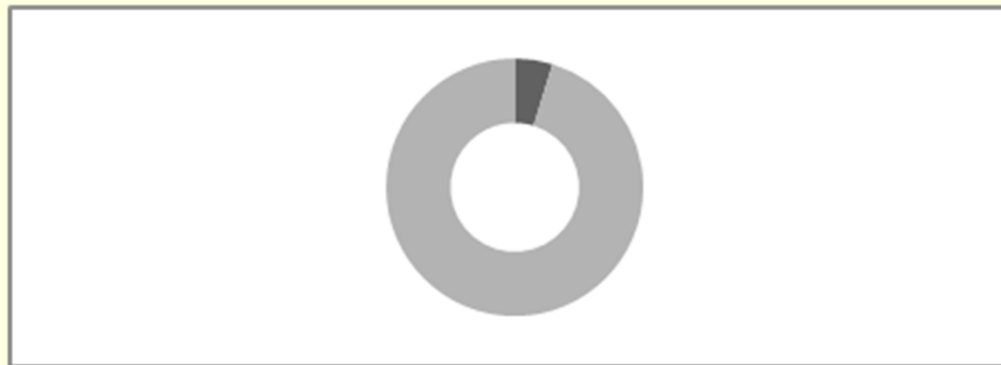


■ はい 4 人

■ いいえ 59 人

# 職員チェックリスト

設問17 他の職員が、利用者に対してあなたが虐待と思われる行為を行っている場면을容認したこと(注意できなかったこと)がある。



■ はい 3 人

■ いいえ 60 人

# 総合支援法の「意思決定支援」に期待するもの

---

- ・自分で決めることの体験を日常において当たり前を経験し、情報の提供や利用が常に可能であり、意思を伝えることをそれぞれの特性に応じて支援できる環境整備
- ・障害があっても安心して意思決定できるように、「支援する—支援される」関係ではない、寄り添い方の支援が確立されること
- ・障害があっても当たり前、一人の人として受け止められること